

令和4年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 勤務時間を意識した働き方を心がけ、限られた時間内で成果の上がる教育活動を行う。</li> <li>○ コミュニティ・スクールとして、地域との連携を深め、魅力ある学校づくりを行う。</li> <li>○ 生徒の成長と進路希望実現のために、一人一人に対し、心のこもった進路指導を行う。</li> </ul>			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方の支援を受けて探究活動や体験活動を実施し、生徒は主体的・対話的な授業をとおして自身の進路実現に向けて取り組んだ。</li> <li>・ ICT活用のための校内研修を実施し、授業において積極的にICT機器を活用する教員が増加した。</li> <li>・ 「人権週間」において、学年の発達段階に応じた人権教育・同和教育に取り組み、互いの人権を大切にする意識を涵養ができた。</li> <li>・ 心の問題やいじめ等が原因で進路実現をあきらめることがないよう、今後も生徒に寄り添い、組織的に取り組んでいく。</li> </ul>	○ 学力向上と地域と連携した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と連携した教育の推進と進路実現に対する目的意識の高揚</li> <li>・ 家庭学習習慣の確立</li> </ul>		
	○ 深い学びにつながる質の高い授業実践と生徒の理解度に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケートを基にした授業改善</li> <li>・ 習熟度別授業の拡充</li> </ul>		
	○ 豊かな人間性と社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の確立</li> <li>・ 様々な学校行事を通じて、人との関わり方を学び、人格を磨く</li> </ul>		
	○ コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿賀町、地元企業、教育委員会等の支援による教育活動の実施</li> </ul>		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
学力の向上と地域と連携した教育の推進	・ 地域と連携した教育の推進と進路実現に向けた目的意識の高揚	・ 地域の方を講師に招き、総合的な探究の時間における「阿賀町さいこうプロジェクト」や進路学習を通して、主体性や探究力を身につけさせ、自己の適性や進路について考えさせる。	A	A
		・ 進路ガイダンスや「阿賀町さいこうプロジェクト」、LHRでの進路学習を通じて、生徒の進路意識を啓発する。	A	
	・ 進路実現の支援	・ 進路先への志望理由書や小論文指導を通じ、自己理解を促し、将来のキャリアプランを明確に表現できる力を身につける。	A	A
		・ 長期休業中や8月以降の放課後に、3年生の大学進・短大学希望者や1・2年生の大学等進学希望者を対象とした講習を行う。	A	
		・ 1・2年生の大学等進学希望者を対象に、進路探究の一環として大学・短大のオープンキャンパスに参加し、その成果を2学期に	A	

		「オープンキャンパス発表会」で発表する。			
	・家庭学習習慣の確立	・手帳の学習記録欄を活用し、計画的に家庭学習を進めながら学習状況の把握に努め、家庭学習習慣の確立と充実を目指す。	B	B	
深い学びにつながる質の高い授業実践と生徒の理解度に応じた指導	・授業改善の推進	・授業改善に資するため、公開・研究授業期間を設定し、保護者・近隣諸学校に広く公開するとともに、職員同士で授業を参観し合い、良いところ・改善点を指摘しあう。	C	C	B
	・指導方法の工夫改善	・数学・英語で習熟度や個の特性に応じた指導ができるよう、単元や学習内容によっては必要に応じ授業形態を変えて授業実施する。 ・授業でICT機器を活用できるように機器の基本操作説明やICT活用研修を行う。	A	A	
生徒の規則正しい生活習慣の確立と豊かな人間性と社会性の涵養	・基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成	・生徒会と共に、挨拶や時間厳守、身だしなみ等の推進活動を行う。	A	B	
		・生徒に対して面談や個々に応じた学習支援、日々の声かけ等を通じて、他者との交流に喜びを感じ、積極的に他者と関わろうする態度を育成する。	A		
		・交通違反及び交通事故0宣言を行い、交通講話や実技講習会を通して、安全への意識を高め交通ルールを遵守できるようにする。	D		
	・いじめの撲滅	・教育活動全体を通じて人権教育、同和教育を推進するとともに、発達段階、学習歴に応じた内容で、学級ごと人権教育、同和教育の授業を実施する。	A	A	A
		・全生徒、及び保護者向けのアンケートを実施し、個々のケースに迅速に対応できるようにする。	A		
		・全職員での生徒情報交換会を実施し、指導、対応について共通理解を図る	A		
地域や関係機関と連携した体験活動の充実	・地域や関係機関と連携した体験活動の実施	・地域施設の協力を得て職業体験や福祉体験を通じて、職業観や就業感を育成する。	A	A	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方の支援を受けながら探究活動や体験活動等を実施し、生徒は主体的・対話的な授業をとおして自身の進路実現に向けて取組んだ。</li> <li>・ ICT活用のための校内研修を実施し、授業のみならず校務においても積極的にICT機器を活用する教員が増加した。</li> <li>・ 「人権週間」において、学年の発達段階に応じた人権教育、同和教育に取り組み、互いの人権を大切にする意識を涵養ができた。</li> </ul>		総合評価		A